

## 開館20周年を迎えた新潟県埋蔵文化財センター

当センターは『埋蔵文化財を保存し、及びその活用を図ることにより、県民の文化の向上に資するため』（県埋蔵文化財センター条例）に平成8年10月、現在地の「花と遺跡のふるさと公園」内に開館し、今年で20年目を迎えます。今年度はこれを記念して、県のお宝『新潟県指定考古資料』を御覧いただける企画展と講演会を開催しますので、皆様、御期待ください。

センターの直接的な管理・運営は開館当初から公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団が行っていますが、この間、遺跡の調査及び研究、出土品の保管、保存処理、市町村職員研修、出土品及び埋蔵文化財に関する資料の公開・普及などの各種事業を展開して参りました。

20年間の埋蔵文化財（遺跡）の発掘調査は287か所（平成8～27年度）にのぼり、調査報告書も186冊（平成8～27年度）刊行、出土品約35,500箱（開館以前のものも含む）を収蔵管理しています。また、県内最大規模の保存処理施設では、開館時から休むことなく脆弱品の理化学的処理を継続しています。

これらの出土品や発掘調査成果は、センターで開催する企画展、新資料展、常設展や発掘調査報告会、発掘調査現地説明会、そして県内外施設の展覧会で広く公開・活用が図られています。そして、開館間もないころから校外学習や生涯学習の場として活用され始め、今では新潟市及び周辺市から毎年50件以上（学校・各種団体・町内会など）の団体が訪れ、センター施設を利用しての学習が定着した感があります。最近では出土品を学校の教室に持ち込み、当事業団の考古学専門職員が分かりやすく説明する出前授業も好評で、館外での普及事業も活発化してきました。

開館当初を思い起こせば、公園エリアは土取り跡地であったため、公園造成後しばらくは地肌むき出しの荒涼たる景観でしたが、関係者の努力により、今では緑あふれる公園に変貌しています。そして園を中心とする半径800m内には、当センターのほかにも県立植物園、新津美術館、中野邸美術館、石油の世界館、弥生の丘展示館、国史跡古津八幡山遺跡、新津フラワーランドなどの文化・歴史・教育・観光施設が集中し、これらの連携も図られ、年間65万人（平成26各施設入込客数合計）が訪れる県内屈指の観光・行楽・学習スポットになっています。今後は、この全国に誇れる所在環境を最大限活かし、県民ニーズをよりの確に捉えた埋蔵文化財事業を展開して参ります。より多くの皆様に愛され、活用していただける施設となるよう一層の努力をして参りますので、引き続き皆様方の御支援をお願いいたします。

（鈴木俊成）



新潟県埋蔵文化財センター



校外学習の様子

# 平成28年度 本発掘調査遺跡・整理遺跡一覧



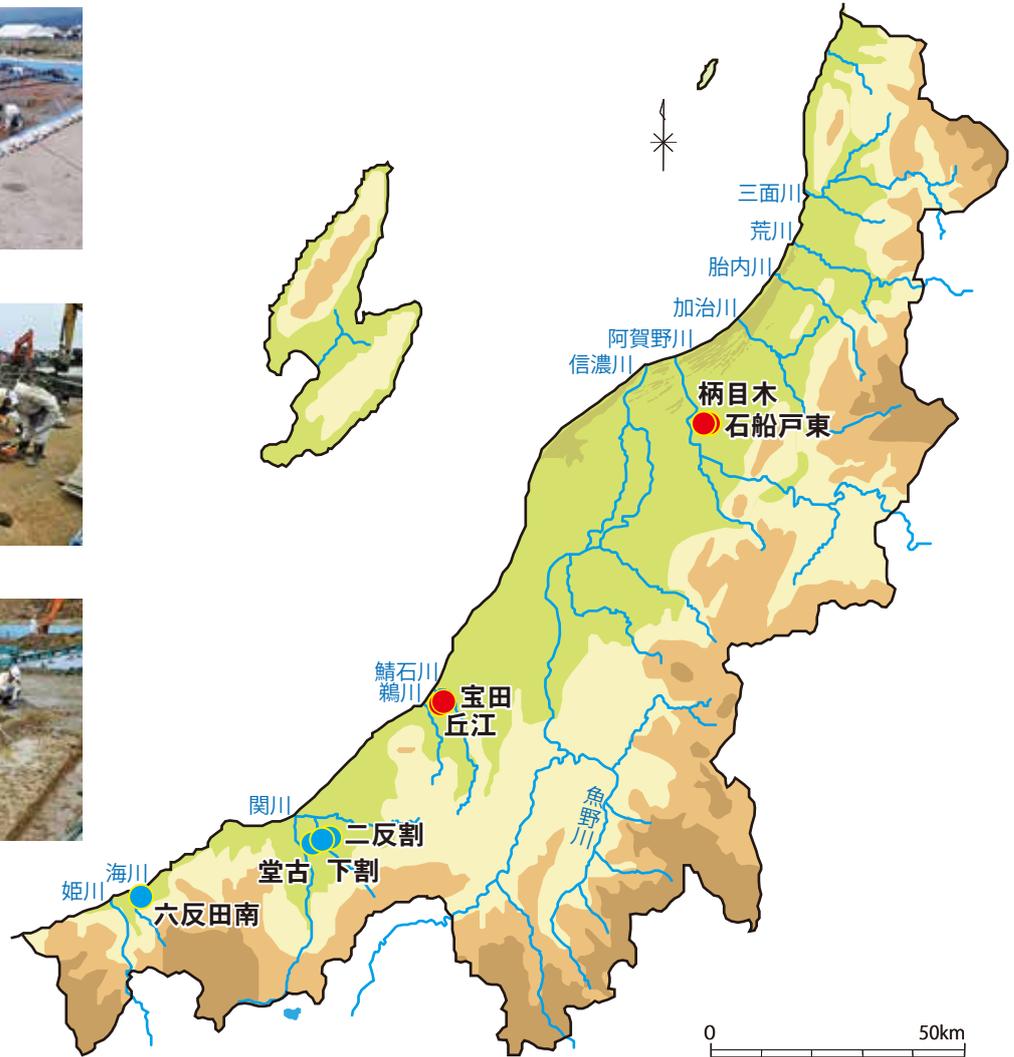
柄目木遺跡



丘江遺跡



宝田遺跡



## 本発掘調査

遺跡名	事業名	所在地	調査期間	主な時代
柄目木遺跡	国道49号阿賀野バイパス	阿賀野市	4～6月	古代・中世
石船戸東遺跡	国道49号阿賀野バイパス	阿賀野市	7～11月	縄文・中世
宝田遺跡	国道8号柏崎バイパス	柏崎市	4～9月	古代・中世
丘江遺跡	国道8号柏崎バイパス	柏崎市	4～11月	弥生・古墳・中世

## 整理作業

柄目木遺跡	国道49号阿賀野バイパス	阿賀野市	古代・中世
六反田南遺跡	国道8号糸魚川東バイパス	糸魚川市	中世
二反割遺跡	国道253号上越三和道路	上越市	古代・中世
堂古遺跡	国道253号上越三和道路	上越市	古代・中世
下割遺跡	国道253号上越三和道路	上越市	中世・近世

埋文コラム

じょうもんじだい こくようせき  
縄文時代の黒曜石利用

せきぞく いしきり ふていけいせつき  
石鏃や石錐・不定形石器など鋭い切り口が必要な石器には、こくようせき  
黒曜石が好んで使われました。黒曜石は、ようがん きゆう  
溶岩が地表近くで急激に冷えてできた天然ガラスなので、産地は火山の近くに限られています。現在、日本では70か所あまりの産地が確認されています。新潟県内でも佐渡市や新発田市、魚沼市などに産地があります。各産地の黒曜石は元素比率にわずかな違いがあり、これを調べることで遺跡から出土した黒曜石の産地を推定することができます。新潟県の縄文時代の遺跡からは地元に限らず、長野県や、遠く北海道・九州が産地と推定される石器が出土します。縄文時代は約15,000～2,500年前までの1万年あまりの長期にわたり続きますが、この間、黒曜石はすばらしい切れ味の得られる貴重な石として、その産地は代々受け継がれ広く流通していたようです。

黒曜石原産地名

- |          |       |
|----------|-------|
| 1 佐渡     | 5 久見  |
| 2 板山・上石川 | 6 淀姫  |
| 3 月山     | 7 赤井川 |
| 4 和田峠 など | 8 置戸  |



黒曜石原産地

(薬科哲男 2013年「川久保遺跡出土の黒曜石製石器、剥片の原産地分析」『川久保遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書 第233集から引用・加筆)

ここで、新潟県内の縄文時代の遺跡における黒曜石の流通について概観してみます。

縄文時代草創期には原石を遺跡に持ち込んで石器作りをした例はほとんどありません。石槍や石鏃などの完成品が中魚沼郡の信濃川流域、東蒲原郡阿賀町の室谷川流域に持ち込まれている程度です。早期から前期には新発田市板山の産地が開発され、近くの遺跡では板山産の黒曜石を遺跡に持ち込み、石器製作が行われるようになったようです。前期から中期は黒曜石の利用が最も盛んになった時期で、黒曜石製石器の分布も信濃川や上越市の関川伝いに海岸部まで拡大します。信濃川流域では石器の材料となる石核が出土する遺跡もあることから、長野県産黒曜石の伝播ルートを示すのかもしれませんが、この時期には地域によって用いる黒曜石の産地に違いがあるようです。信濃川より西側では長野県産の黒曜石、阿賀野川流域では長野県産の黒曜石とともに、山形県月山や新発田市板山の黒曜石も用いられています。佐渡では、前期末ごろから長野県産とともに島内の黒曜石も使われ始めたようです。後期から晩期には黒曜石製石器そのものは減少しますが、利用する産地は多様化したようです。

埋文センターの常設展示では様々な産地の黒曜石を比較できます。産地による石質の違いを見比べてください。(土橋由理子)

<p>縦3.8cm</p>	<p>縦2.9cm</p>	<p>縦1.8cm</p>	<p>縦1.9cm</p>	<p>縦1.8cm</p>
<p><b>長野県 霧ヶ峰産等</b> 透明度が高いです。 左：糸魚川市六反田南遺跡（縄文時代中期）石鏃 右：湯沢町川久保遺跡（縄文時代中～後期）石鏃</p>	<p><b>山形県 月山産</b> 透明度は低く、やや濁った印象です。 村上市長割遺跡（縄文時代後期）不定形石器</p>	<p><b>新発田市 板山産</b> 混ざり物のない良質な石材です。 新発田市青田遺跡（縄文時代晩期）石鏃</p>	<p><b>新発田市 上石川産</b> 混ざり物のない良質な石材です。 左：新発田市青田遺跡（縄文時代晩期）石鏃 右：同 石錐</p>	<p><b>魚沼市 大白川産</b> 透明度が低いです。 湯沢町川久保遺跡（縄文時代中～後期）剥片</p>

埋文センター常設展示室に展示中の様々な産地の黒曜石

新潟県埋蔵文化財センター  
開館20周年記念

## 「新潟県指定考古資料展」を開催します

新潟県埋蔵文化財センターが平成8年秋、新潟市秋葉区金津に開館して今年で20周年を迎えます。これを記念して、これまで新潟県教育委員会が高速道路や国道等の工事に先立ち発掘調査を実施した遺跡の中から、出土品が県指定考古資料となった5遺跡の遺物をあらためて展示公開し、広く一般に知っていただく企画展を催します。

■会 期 平成28年7月16日(土)～平成29年1月22日(日)  
〔12月29日～1月3日は休館〕

■会 場 新潟県埋蔵文化財センター〔新潟市秋葉区金津〕

■展示遺跡 五丁歩遺跡（南魚沼市／縄文時代中期）

裏山遺跡（上越市／弥生時代後期）、

余川中道遺跡（南魚沼市／古墳時代中～後期）、新保遺跡・柿崎古墓（上越市／平安時代）、

木崎山遺跡（上越市／鎌倉時代）



木崎山出土地鎮具（鎌倉時代）

■観覧無料です。

### 講演会

回	日 程	タイトル・講師	定員	受付締切
1	7月17日(日) 13:30～15:30	火炎土器を持たない山間部のムラ ― 五丁歩遺跡 ― 高橋 保（新潟県埋蔵文化財調査事業団）	60名	7月15日(金)
2	8月28日(日) 13:30～15:30	裏山遺跡が提起する弥生時代集落問題 ― 高地性集落とは ― 滝沢 規朗（新潟県教育庁文化行政課）	60名	8月26日(金)
3	9月11日(日) 13:30～15:30	余川中道遺跡と魚沼の王墓 小野本 敦（新潟県埋蔵文化財調査事業団）	60名	9月9日(金)
4	10月16日(日) 13:30～15:30	柿崎古墓 ― 特等の葬法 ― 田海 義正（新潟県埋蔵文化財調査事業団）	60名	10月14日(金)
5	11月13日(日) 13:30～15:30	木崎山出土地鎮具 ― 人びとの願いと畏れ ― 戸根 与八郎氏（株ノガミ・日本考古学協会員）	60名	11月11日(金)
申込方法	(公財)新潟県埋蔵文化財調査事業団に電話・ファックス・メールのいずれかで、氏名・住所・電話番号・希望日をお申し込みください。受付は先着順で定員になり次第締め切らせていただきます。 ■電話 (0250)25-3981 ■Fax (0250)25-3986 ■メール niigata@maibun.net			

◆新潟県教育庁文化行政課と共通の「まいぶんちゃんスタンプラリー」、「いきいき県民カレッジ」の対象講座です。

### 新潟県指定考古資料展 展示解説・体験コーナー

◆日 程 7月16日(土)・8月28日(日)・9月11日(日)・10月9日(日)・11月13日(日)

◆展示解説 10:30、13:00、15:40

(各回40分、8月から13:00開始は20分間)

◆体験コーナー 10:00～12:00、13:00～15:30 各回先着20名

☆山ブドウ樹皮のペンダント作り（7/16・11/13）

☆火起こし体験（8/28・10/9）

☆勾玉作り（9/11）

無料



山ブドウ樹皮のペンダント



## 親子考古学教室を開催します

今年も夏休み恒例の親子考古学教室を開催します。縄文時代に焦点を当て、当時の生活の様子を土器や石器を用いて解説します。本物の縄文土器をさわってワークブックにスケッチするほか、マイギリ法の火起こし、オープン陶土を用いた土器作り（15・21日のみ）、滑石製の勾玉作り（20日のみ）を体験できます。作った土器や勾玉は当日お持ち帰りいただけます。ワークブックに見たこと・分かったこと・感想を書き、写真を貼ると、夏休みの自由研究が完成です。

夏休みに親子で縄文を学び、体験しよう！

●日 時…平成28年 8月15日(月)・20日(土)・21日(日)  
10:00～15:00 (受付9:30～9:50)

●対 象…小学3年生以上の子どもとその保護者

●定 員…親子20組40名

●申 込…平成28年 7月1日(金)～8月5日(金)  
(申込み多数の場合は抽選)

氏名・住所・電話番号・参加希望日(第2希望まで)を添えて新潟県埋蔵文化財調査事業団まで

電話：(0250)25-3981 FAX：(0250)25-3986

メール：niigata@maibun.net



縄文土器をさわろう！



親子で土器作り



## 小・中学校の校外学習・出前授業・職場体験を行っています

小・中学生を対象とした社会科歴史の学習支援を行っています。歴史を学び始めた児童・生徒にとって、縄文時代は現代社会との結び付きが希薄なため、他の時代よりも身近に感じづらい面があります。

そこで、当センターでは本物の土器や石器を活用した校外学習と出前事業を展開しています。実物をさわって観察することによって、縄文時代の具体的なイメージをつかむことができます。また、センターの専門的な仕事内容を知っていただくことは、キャリア教育にも資すると考えています。バラバラに出土した土器を集めて接合・復元し、正確な図面を作成する整理作業は、専門的な技術を要するセンターならではの仕事です。こうした仕事を校外学習で積極的に公開し、職場体験では実際に体験することができます。

学習内容や時間は自由に組み合わせることができます。ぜひ、センターを活用いただきますよう御相談をお待ちしております。



中学生が縄文土器の復元作業を見学

### 埋蔵文化財センターの学習メニュー

#### ■実物を用いた縄文時代の解説(45分)

- ・土器片(縄文・弥生・古代)の観察
- ・縄文土器を持ってみよう
- ・学校のまわりにある遺跡
- ・縄文集落と竪穴住居の画像による学習
- ・縄文人の道具箱(石器セット)の観察
- ・ワークシートを用いた縄文展示見学

#### ■体験学習

- ・石器の使用体験(15分)
- ・火起こし体験(50分)
- ・勾玉作り(50分)

#### ■センターの仕事見学(30分)

- ・土器の復元や実測などの整理作業
- ・木製品や金属製品の保存処理作業
- ・収蔵庫の出土品保管の様子

## 県内の遺跡・遺物93

うら やま

## 裏山遺跡 出土品102点

(平成24年3月27日 新潟県指定有形文化財(考古資料))

遺跡所在地：上越市大字岩木字裏山ほか

遺物保管：上越市（上越市埋蔵文化財センター）

裏山遺跡は、弥生時代後期後半の短期間に営まれた高地性環濠集落で、標高約90mの丘陵上に立地します。春日山城本丸から南東に1.2kmの距離にあり、丘陵下の岩木集落とは約70mの比高があるため、遺跡から頸城平野や日本海を一望できます。

山頂には平坦面が広がり、堅穴建物8棟と土坑などがみついています。周囲の急峻な斜面には濠がめぐらされており、戦いに備えた防御のムラであると考えられています。1棟の堅穴建物から武器と思われるこぶし大の「つぶて石」がまともって出土したことは、これを示すものと言えるでしょう。弥生時代後期後半は、中国の歴史書に記述のある「倭国大乱」の時期にあたり、全国的な戦乱の余波がこの地にも波及していた可能性があります。

出土遺物は弥生土器・石器のほか、鉄製品や管玉・ヒスイ製勾玉・ガラス小玉などの玉類と玉類未成品、軽石製研磨具などがあります。特に注目されるのが鉄製品で、鍬・鋤先6点、鏃3点など合わせて11点も出土しました。この数は本県の弥生時代後期～古墳時代前期では最も多く、鍬・鋤先については北陸地域の中でも最多です。朝鮮半島および北部九州の強い影響を受けたか、あるいは直接持ち込まれたものと考えられています。一方、土器の中には近江系や信州系の土器が少ないながら認められます。これらのことから、裏山遺跡では広範囲にわたる地域との交流があったことがうかがえます。

裏山遺跡は、県内で初めて弥生時代集落を全面的に調査した例で、北陸全域で見ても希少であり、高地性集落の性格や構造を考える上で極めて貴重な資料であると評価され、平成23年度に出土品のうち102点が県有形文化財（考古資料）に指定されました。（坂上有紀）

参考資料：

新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団2000

『裏山遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第96集

ニュー・サイエンス社2000 『月刊考古学ジャーナル』

12月号 No. 467



遺跡を西上空から望む(奥には高田平野が広がる)

玉類(1~4:管玉、5~7:  
ガラス小玉、8・9:勾玉未成品)鉄製品  
(1~3:鋤先、4:鉄鍬、5:鉋)

## 埋文にいがた No. 95

発行 (公財)新潟県埋蔵文化財調査事業団  
〒956-0845 新潟市秋葉区金津93番地1  
TEL (0250) 25-3981  
FAX (0250) 25-3986  
E-mail: niigata@maibun.net  
URL: http://www.maibun.net  
印刷 阿部印刷株式会社

『埋文にいがた』95号 正誤表

頁	行	誤	正
6	上から3行目	春日山城	国史跡春日山城跡
6	下から10行目	最も多く、	上越市下馬場遺跡に次いで2番目に多く、